

富山県におけるアライグマの生息情報と箱わなによるアライグマの捕獲の初記録について

間宮寿頼, 赤座久明

富山県自然博物館ねいの里

939-2632 富山県富山市婦中町吉住 1-1

The appearance of wild Raccoon (*Procyon lotor*) and the first capture by box traps in Toyama Prefecture

Kazuyori Mamiya, Hisaaki Akaza Toyama outdoor nature museum 1-1 Yoshizumi Futyu-machi Toyama, Toyama

939-2632, Japan

【摘要】

富山県の捕獲記録としては、県の狩猟統計では1997年から2002年にかけてアライグマ (*Procyon lotor*) 14頭 (1998年は7頭の捕獲記録) の捕獲記録があるとされているが、いずれも確かな情報か疑問である。なお、アライグマの確かな捕獲記録としては、2008年8月17日に高岡市赤祖父地内で高岡警察署が捕獲した記録があり、これが確実な捕獲の初記録と思われる。また、2008年9月11日に富山市婦中町吉住地内でも目撃記録がある (間宮,未発表)。以後、確かなアライグマの情報は2014年10月に氷見市余川地内のブドウ畑でアライグマの複数頭による農作物被害が発生した記録があるほか、同年10月27日には同地内の自動撮影カメラで5頭撮影され、箱わなによる捕獲を試みられたが捕獲できなかった。これらのことから、県内では氷見市が初めて野生個体のアライグマの記録ではないかと考えている。また、2016年7月に氷見市余川地内で幼獣が捕獲されたことから、野外で自然繁殖したと思われ、氷見市の一部の地域では野生下でアライグマが定着していると考えられる。今後、アライグマの生息域が拡大しないような対策の強化が望まれる。

【はじめに】

食肉目アライグマ科に属するアライグマ (*Procyon lotor*) は、北米原産の哺乳類であるが、国内での最初の野生化は、1962年に愛知県犬山市の動物園から12頭のアライグマの脱走に由来すると考えられており、

定着していったと考えられている。

これまで、隣県の新潟県や石川県、岐阜県、長野県ではアライグマの生息情報があるが、富山県では情報がなかった。しかしながら、2014年に氷見市余川地内のブドウ畑での農作物被害や2016年に氷見市余川地内で5頭のアライグマが捕獲されるなど、野生下での生息が確認されるようになってきている。

【方法】

県内における生息・捕獲情報については、富山県生活環境文化部自然保護課をはじめ富山県農林水産部、氷見市農林水産部から聞き取り調査を行った。なお、農作物被害のあったブドウ畑には2014年10月~12月まで自動撮影カメラによる生息状況調査も行った。また、2016年に富山県内で初めて箱わなで捕獲された個体 (3頭) については外部計測などを行った。

【結果】

富山県の捕獲記録としては、県の狩猟統計では1997年から2002年にかけて14頭 (1998年は7頭の捕獲記録) の捕獲記録があるとされているが、これだけの捕獲があるにも関わらずそのような地域で目撃情報や農業被害の報告などがなく、それ以後の2003年から2015年まで捕獲記録がないことを考慮すると、ハクビシンと混同しているのではないかと考えている。なお、アライグマの確かな捕獲記録としては、2008年8月17日に高岡市赤祖父地内で高岡警察

署が捕獲した記録（図1）がある。これが確かな捕獲の初記録と思われる。また、2008年9月11日に富山市婦中町吉住地内でも目撃記録がある（間宮,未発表）。



図1. 高岡市赤祖父地内で捕獲されたアライグマ

以後、確かなアライグマの情報は氷見市余川地内のブドウ畑で、2014年10月1日に自動撮影カメラで初めてアライグマが確認され、10月9日にアライグマの複数頭による農作物被害が発生した自動撮影カメラの記録（富山県高岡農林振興センター）がある。10月27日には同地内の別の自動撮影カメラで5頭撮影（間宮,未発表）され、箱わなによる捕獲が試みられたが捕獲できなかった。その他、2015年10月27日には富山市寺家地内の猿倉山で自動撮影カメラにより1頭が撮影されている（中島,未発表）。

2016年7月23日には氷見市余川地内の民家の軒下と蔵の中で3頭（成獣1頭、幼獣2頭）が箱わなで捕獲され、8月12日にも同所の民家の軒下で2頭（幼獣2頭）の捕獲があった。幼獣の捕獲もあり、野生で自然繁殖したと思われる。また、5頭の捕獲の後も2頭がわなの前の自動撮影カメラで撮影されていることから、最低7頭の生息が確認されたことになる。

それ以後、2017年4月27日には氷見市白川地内のゴルフ場の乗用カートのシートをアライグマが破る目撃情報があるなど、氷見市の一部の地域でアライグマが定着していると考えられる。目撃と捕獲記録は表1で、確認場所は図5で示した。

なお、箱わなによるアライグマの初捕獲個体の外部計測データを以下に示す。

①成獣♀（図2）

捕獲年月日：2016年7月23日

捕獲場所：富山県氷見市余川地内

（北緯36度52分51.3秒、東経136度57分45.2秒）

性別：♀

体重：7.1kg

頭胴長：56cm

尾長：18.5cm

体高：28cm

前足長：9cm

前足幅：3.5cm

②幼獣♀（図3）

捕獲年月日：2016年7月23日

捕獲場所：富山県氷見市余川地内

（北緯36度52分51.3秒、東経136度57分45.2秒）

性別：♀

体重：1.55kg

頭胴長：36cm

尾長：19.5cm

体高：21cm

前足長：7.3cm

前足幅：2.7cm

③幼獣♀（図3）

捕獲年月日：2016年7月23日

捕獲場所：富山県氷見市余川地内

（北緯36度52分51.3秒、東経136度57分45.2秒）

性別：♀

体重：1.92kg

頭胴長：38cm

尾長：22cm

体高：21.5cm

前足長：7.3cm

前足幅：2.9cm



図2. アライグマ1頭（成獣）



図 3. アライグマ 2 頭 (幼獣)

④幼獣♂ (図 4 : 氷見市情報・写真提供)

捕獲年月日 : 2016 年 8 月 12 日
 捕獲場所 : 富山県氷見市余川地内
 (北緯 36 度 52 分 51.3 秒、東経 136 度 57 分 45.2 秒)
 性別 : ♂
 体重 : 不明
 頭胴長 : 45cm
 尾長 : 25cm

⑤幼獣♀ (図 4 : 氷見市情報・写真提供)

捕獲年月日 : 2016 年 8 月 12 日
 捕獲場所 : 富山県氷見市余川地内
 (北緯 36 度 52 分 51.3 秒、東経 136 度 57 分 45.2 秒)
 性別 : ♀
 体重 : 不明
 頭胴長 : 45cm
 尾長 : 30cm



図 4. アライグマ 2 頭 (幼獣)

表 1. アライグマの生息情報と捕獲情報

年	月	アライグマの目撃・捕獲情報
1	2008年 8月	高岡市赤祖父地内で1頭捕獲。
2	9月	富山市婦中町吉住地内で目撃。
3	2014年 10月	氷見市余川地内でブドウ畑で農作物被害発生。箱わな側などでも自動撮影カメラで5頭を撮影。
4	2015年 10月	富山市寺家地内の山林で1頭を自動撮影カメラで撮影。
5	2016年 7月	氷見市余川地内で民家の庭で3頭の捕獲。
6	8月	氷見市余川地内で民家の庭で2頭の捕獲。
7	2017年 4月	氷見市白川地内のゴルフ場で目撃。

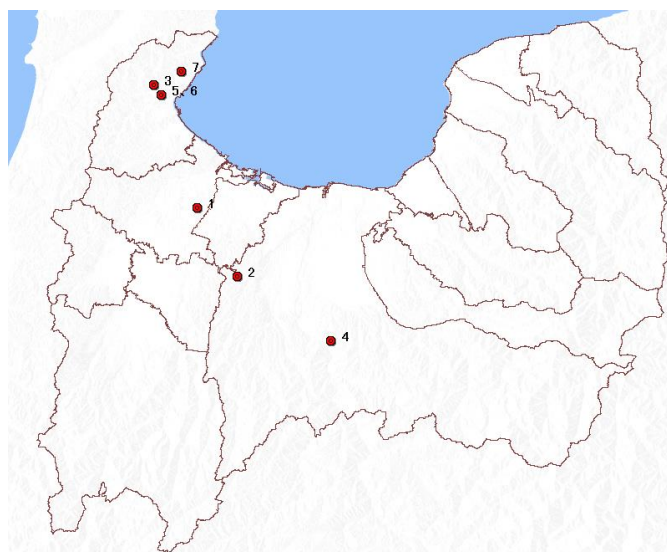


図 5. 富山県内のアライグマの目撃・捕獲場所

【考察】

富山県では 2008 年に高岡市赤祖父地内でアライグマの捕獲された記録があったが、人に対する警戒心がない行動も観察されたことから、飼育個体の逸失や逃亡と考えられる。また、同年に富山市婦中町吉住地内でも目撃記録があったが、それ以後情報もなく、おそらく飼育個体の逸失や逃亡、遺棄などによる原因であると思われる。

2014 年には氷見市余川地内のブドウ畑で自動撮影カメラにより、県内で初めてアライグマによる農作物被害の発生や複数頭での記録があるなど、野生で自活する野生個体のアライグマの初めての記録であると考えられる。2015 年には富山市寺家地内の山林で確認されたが、飼育個体の逸失個体かどうかは不明である。

2016 年には氷見市余川地内の民家の庭で箱わなにより、計 5 頭のアライグマがわなにより初めて捕獲された。その中には幼獣も含まれており、富山県で初めて野生下でアライグマの繁殖が確認される記録とな

った。なお、捕獲については、民家の敷地内であり、蔵や屋根裏などで子育てをしていた可能性も高いと考えられた。同所の自動撮影カメラの情報も含めると全部で7頭のアライグマが確認されていることになり、県内では最大頭数の記録となった。

2014年にアライグマの農作物被害が発生した地点（氷見市余川地内）と2016年に捕獲された地点（氷見市余川地内）は直線距離で約1.9kmであるほか、2016年の捕獲地点から2017年に目撃された地点（氷見市白川地内）は約4.5kmあった。これらの地域周辺でも生息の可能性があることから、今後、生息域を拡大させないように生息情報の収集や捕獲の強化など早急な対策が必要であると考えられる。

謝辞

氷見市におけるアライグマの目撃・捕獲情報に関しては氷見市産業振興部茶木隆之氏に情報をいただいたほか、富山市の情報は富山県森林研究所の中島春樹氏、農作物被害については富山県農林水産部林保則氏、高岡農林振興センター粕谷健一郎氏、県内の捕獲情報に関しては富山県生活環境文化部自然保護課のご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

引用文献

- ・揚妻・柳原芳美. 2004. 愛知県におけるアライグマ野生化の過程と今後の対策のあり方について 哺乳類科学 44 (2) : 147-160
- ・小林秀司・中本敦・清水慶子・高田歩・森脇正己. 2012. における野生アライグマの初記録とその外部寄生性ダニ類および初撮影記録. 岡山理科大学 Naturalistae, 16:83-90
- ・山田文男・池田透・小倉剛. 2011 日本外来哺乳類